Qの写撃

全国から応援の声
北海道百年記念塔解体差し止めアピール

裁判中に本格的な解体工事が始まった

道の担当者に要請文を手渡す藤岡共同代表

△藤岡信勝支える会共同代表

△小島孝之支える会共同代表

▲野地秀一守る会代表

△海堂拓己守る会事務局長

東京など、道外からも大勢の参加者が駆け付けた

解体に反対する人たちが道庁へ要請に

「北海道百年記念塔解体差し止め住民訴訟」の第2回口頭弁論が行われる前日の1月23日、道は本格的な解体工事を開始した。

一方で記念塔を守る会と記念塔を支える会（東京）は、「司法判断が下るまで工事を中断するよう」道に要請した。

道議会自民党会議室で行われた合同要請行動には、支える会と守る会の関係者合わせて50人ほどが集まり、支える会の藤岡信勝共同代表（新しい歴史教科書をつくる会副会長）が道の担当者に要請文を手渡した。

さらに同日午後6時から札幌市産業振興センター（白石区）で開かれた「北海道百年記念塔訴訟支援前日集会」には、解体差し止めを支持する人たち約130人が参加。

集会では、記念塔を守る会の野地秀一代表が、「道外からも多くの方にご参加いただいているが、これは〝百年記念塔を残したい〟という強い想いの表れ。記念塔は郷土の誇りで道民の宝だということをひしひしと感じながら、引き続き運動を前に進めていきたい」

とあいさつし、続いてマイクを握った小島孝之記念塔を支える会共同代表は、「訴訟費用を補うためのクラウドファンディングでは、全国から1000万円を超える支援をいただいた。百年記念塔解体が極めて関心の高い問題であることが窺える。なんとしても解体を阻止し、〝開拓〟という文言を北海道の歴史に残そう」

と呼び掛けた。

集会は、海堂拓己守る会事務局長がこれまでの活動を報告した後、〝どう守る記念塔〟をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネラーと参加者が一体となって百年記念塔の存在意義を確認した。

差し止め訴訟は24日結審し、3月28日に判決が出る。

（1月24日現在）（W）